

育成を目指す資質・能力

同じ組み合わせは2度数えないことに気付き、組み合わせの調べ方を理解できる。

ICT活用のポイント

・考え方の確かな共有による学びの広がり、比較する活動の活性化による学びの深まりを意識した授業

並べ方の学習を振り返り、本時の学習課題をつかむ

組み合わせ方は並べ方とどのようにちがうのか？

個別に問題を追及する

書き出し、樹形図、対戦表を用いた考えを共有し、AvsBとBvsAを1つと数えることを理解する

並べ方と比較して重なりが生じる理由を捉え、まとめをする

事例の概要

【事例におけるICT活用の場面②】

○前時の並べ方に関わる問題を大型提示装置で示して復習するとともに、本時の組み合わせ方に関わる問題と比較することでめあてを設定する。

【問題】

A・B・C・Dの4つのチームでアルティメットの試合をします。どのチームも他のチームと1回ずつ試合をするとき、試合の組み合わせは全部で何通りになりますか。

【事例におけるICT活用の場面①】

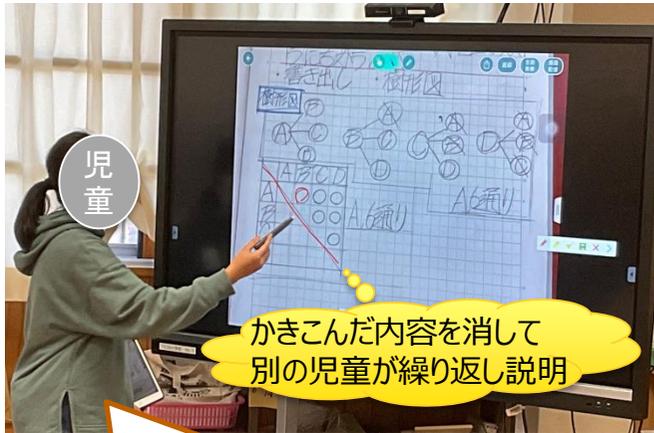
○大型提示装置に映されたノートの画像を利用して考えを説明したり、端末に送付された画像を用いてペアで説明しあったりして友達の考えを共有するとともに、AvsBとBvsAが重なりになることを視覚的に捉える。

【事例におけるICT活用の場面②】

○前時に扱った並べ方の解法を示したノートの画像を大型提示装置で示して赤・青と青・赤は別々に数える理由を考え、並べ方と組み合わせ方の違いを意識したうえでまとめを行う。

【算数・小6・「場合の数」】②

【事例におけるICT活用の場面①】～より確かな共有～



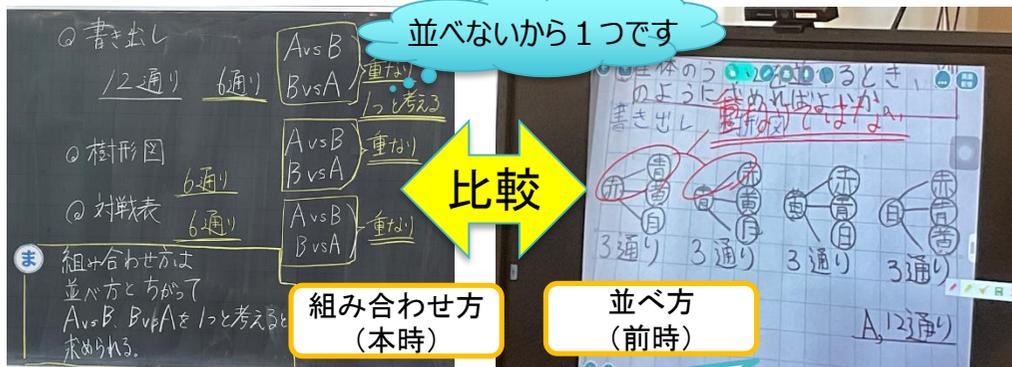
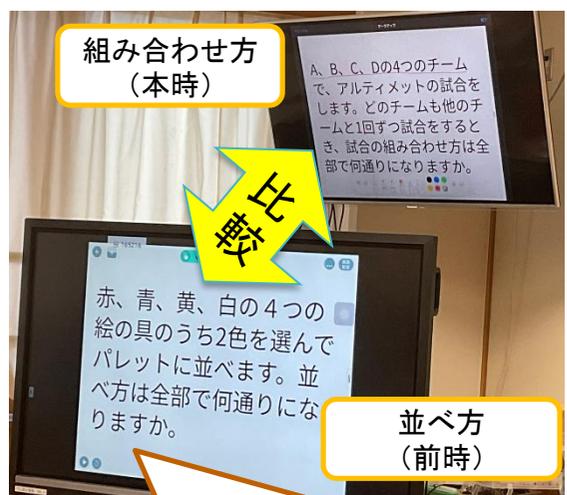
考えを共有する場面では、友達の考えをより確かに理解できるように、全体場で説明するだけでなく、その際用いた画像を一人一人のICT端末に送付して印等をかきこみながら説明させた。別の考え方に移るときは、考えの違いに気付けるよう、「他の考えはある?」「あと見たいのある?」と問いかけ、一覧画面から見付けさせた。

- より確かな理解
- 説明の言葉や考え方が洗練

- 友達の考えを自分のものに
- 樹形図や対戦表のかき方・読み方への理解の向上
- 活動状況の評価 (教師)

- 児童自らが考えを広げる
- 考え方の分類
- 友達の考えを知るよさ

【事例におけるICT活用の場面②】～学習データを活用した比較～

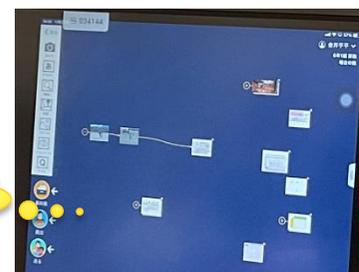


授業の導入場面では児童がめあてを見出せるよう、前時と本時の問題場面を2つのモニターで同時に映し、考えを深める場面では「重なり」の意味を明確に捉えられるよう、前時の解決方法を大型提示装置で提示した。

- 組み合わせ方と並べ方の違いに着目
- 問題意識の向上
- 解決への見通し

- 組み合わせには順序性がないことへの気付き

板書や発表のデータは教師用端末に蓄積



- 【活用したソフトや機能】
- カメラ
 - 写真撮影、画像確認
 - 学習支援ソフト
 - データ提出・受信
 - 一覧表示